

kyndryl.

明日への 備えの パラドックス

Kyndryl Readiness Report 2024

対象業界: 保険





はじめに

Kyndryl Readiness Reportでは、ビジネスおよびテクノロジーリーダーを対象としたグローバルな調査と、キンドリルのAIを活用したデジタルビジネスプラットフォームである Kyndryl Bridge からの独占データを組み合わせたものであり、ビジネスリーダーがビジネスの課題に対処し、競争優位性を得るためにどのようにITおよびIT人材を活用しているかを明らかにしています。

本調査によって、ビジネスリーダーやITリーダーたちは、テクノロジーに対する現在の状況に自信を示す一方で、将来の課題に取り組むための準備に懸念を抱くなど、テクノロジーの準備にパラドックス（矛盾）が生じていることが判明しました。

実に

94%

の保険業界のリーダーが、自社のITインフラが最高水準であると確信しています（全業界平均は90%）

わずか

39%

のリーダーのみ、自社のITインフラは将来のリスク管理に対して準備ができていると回答しています（全業界平均は39%）

保険業界における業界動向

保険業界はリスクの軽減に長けていますが、現在、重大な課題に直面しています。それは、経済的な圧力や継続的なコストの捻出が求められる環境問題、そして保険金請求コストの上昇などです。これらの課題は、マクロ経済の逆風に耐える準備ができているかどうかを問う重要な問題になりつつあります。テクノロジーの統合は潜在的な解決策となり得ますが、多くの保険会社はイノベーションとリスク軽減のバランスを取るのに苦慮しています。

リーダーたちは、サイバー攻撃に対する準備が不十分であることから、レジリエンスを強化する機会が訪れていると報告。

保険業界のリーダーは、サイバー攻撃に対する準備が最も低い水準であると報告しており（全業界平均30%に対し、保険業界は23%）、自社のサイバーセキュリティ対策が将来のリスクに対応できていると感じている割合は3分の1以下という結果になっています。これを受け保険業界のリーダーは、定期的なリスク評価、マッピング、監査の実施に注力しています。

AIの導入を推進し、保険金請求処理を迅速化。

高い投資水準にもかかわらず、保険業界のリーダーはAI導入における準備が最も低いと報告しています（全産業および銀行・金融業界全体で29%に対し、保険業界は22%）。

保険会社は、AIと機械学習によって初回損害通知（FNOL）に関するエンドツーエンドのソリューションへの投資を強化することができます。これらの先進技術を活用することで、保険会社は不正検知を行いながら、保険金請求の受付、査定、引受、クローズまでの時間を短縮することができます。

テクノロジーや小売業に注目するリーダーたちによるスキルに対する高い信頼感。

通信業界を除けば、保険業界のリーダーは、全体的なスキルギャップおよびITの専門スキルと人材に関して、高いレベルで準備ができていると報告しています。また、社内のITスキルや人材が最高水準であると自信を持っている割合が、最も高い傾向にあります。

一部の保険会社は、大手小売業者やハイテク企業の人材を積極的に採用し始めています。こうした人材の採用により、先進的なテクノロジープラットフォームで提供されるユーザーエクスペリエンス（UX/ユーザー体験）を消費者にもたやすことが可能になります。また、保険会社はもうひとつの重要な問題である人材の採用と定着に取り組むことに期待しています。

リスクの適正評価を向上させるために、新たなテクノロジーに大きな期待を寄せる。

保険業界のリーダーたちは、量子コンピューティングやエッジコンピューティングをはじめとする新しいテクノロジーの導入に対する準備が概ね整っていると報告しています。一方、AIについては準備段階であり、どの業界よりも準備が遅れていると回答しています。

保険会社はテクノロジーパートナーと協力して、変化の激しい気象現象をよりの確に予測し、価格を設定できるようなデータを探索し、公開しています。衛星データ、地域データ、気候データをうまく活用することで、保険会社はアナリティクスを用いてリスクを最適に引き受ける方法を見出すことを目指しています。

6つの学び

01

リーダーたちはリスクに対する備えが整っていると感じておらず、さまざまな破壊や変化のスピードへの対応に苦慮しています

02

テクノロジーへの備えの矛盾：リーダーたちは自社のテクノロジーに自信を持っていますが、その準備には懸念を感じています。さらには、テクノロジーのサポート終了（EOL）という課題が差し迫っています

03

最新化されたITは、リスクを軽減する最良の手段ですが、ほとんどの企業でテクノロジーのモダナイゼーションはまだ初期段階にあります

04

複雑さや優先順位付けの思考停止によって、テクノロジーのモダナイゼーションが妨げられています

05

モダナイゼーションを加速するために**少なからぬAI投資**を行っているにもかかわらず、**ROIはなかなか向上していません**

06

テクノロジーのモダナイゼーションに取り組む先駆者は、ビジネスとテクノロジーをうまく連携させることで投資利益率（ROI）を向上させ、**将来に向けてより優れた準備を整えています**

テクノロジーに備えるということは、人材に備えるということ：準備とは、企業のすべてを巻き込む継続的なプロセスであり、技術と同様に「人」も重要です。

01.

リーダーたちはリスクに対する備えができていると感じておらず、さまざまな破壊や変化のスピードへの対応に苦慮しています

サイバー攻撃、規制の変化、気候変動、経済の不確実性、技術的進歩に乗り遅れないことなど、さまざまなリスクへ対応するためにCEOやCIO、CTOは夜も眠れないほどです。

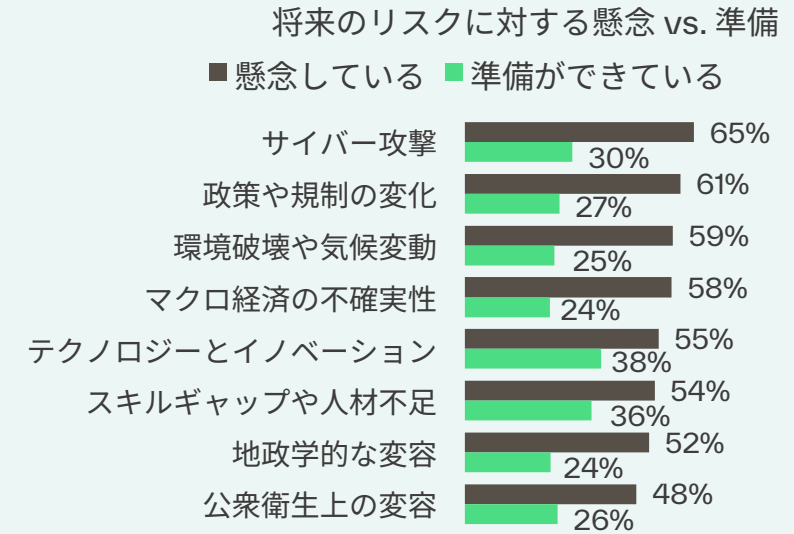
CEOと、CIO/CTOの双方にとって、サイバー攻撃が最大の懸念事項ですが、CIOやCTOに比べて、CEOは外部からの逆風（経済、気候、地政学など）に強い懸念を抱いています。

リーダーが技術革新のスピードに遅れまいと苦慮する一方で、「準備」そのものが刻々と変化しています。規制変更のスピードも大半の回答者にとっては課題であり、この傾向は特にルクセンブルク、フランス、オランダ、インド、オーストラリアで顕著です。

わずか

29%

のビジネスリーダーが外部リスク全体に対して準備ができていると感じています



5人に3人 2人に1人

のビジネスリーダーは技術的進歩のスピードに遅れまいと苦慮しています

は、自国の政策や規制の変更スピードが速すぎると回答しました

01.

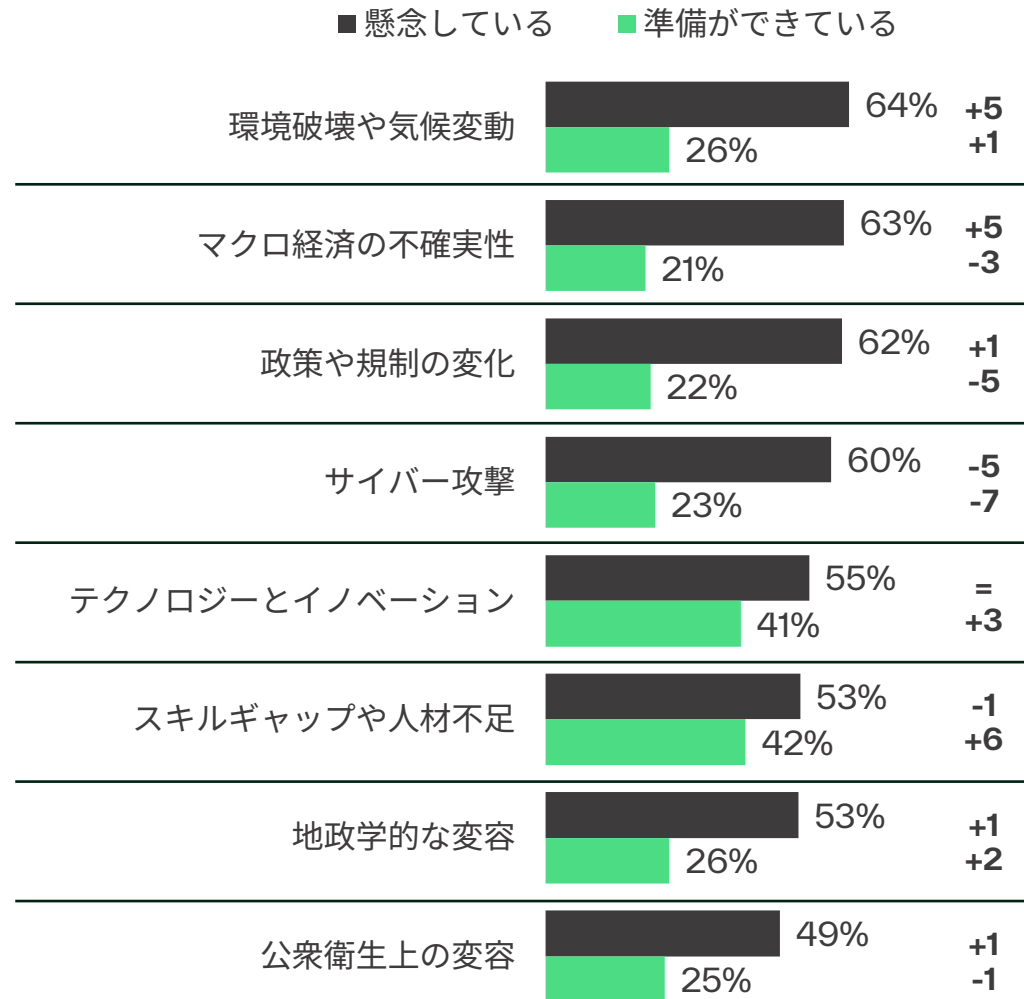
保険業界の
リーダーたちは、
環境破壊を強く
懸念しており、
サイバー攻撃への
備えは不十分で
あると感じています

28%

外部リスク全体に対する準備が
できていると感じている
保険業界のリーダーの割合
(全産業平均は29%)

kyndryl

将来のリスクに対する懸念と準備の比率

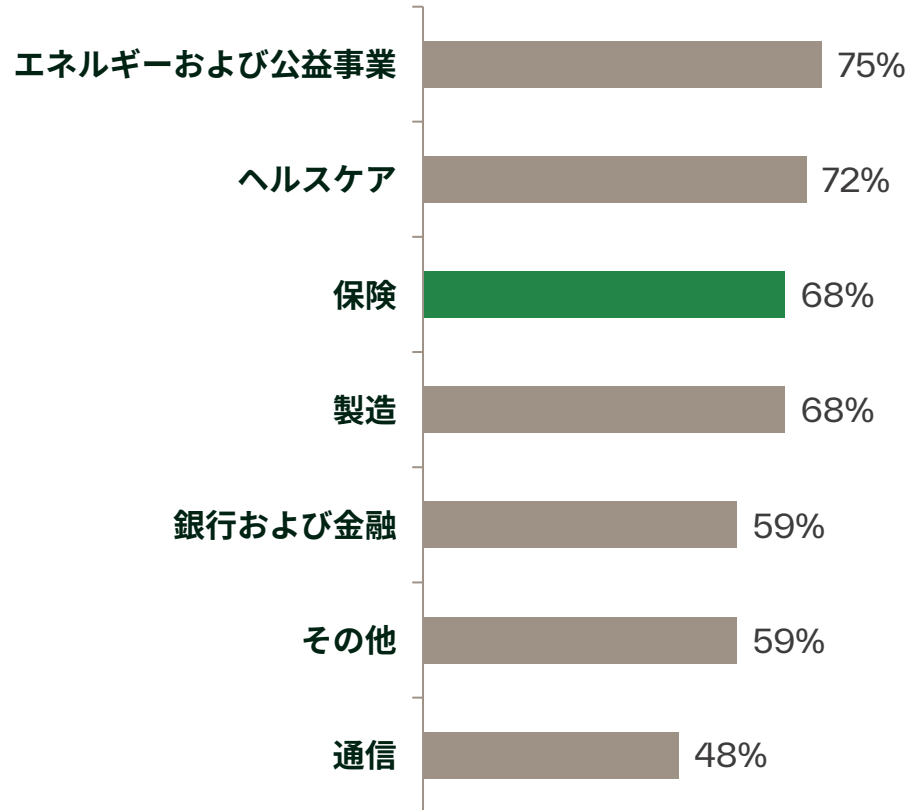


全産業平均における
懸念と準備 (ポイント差)

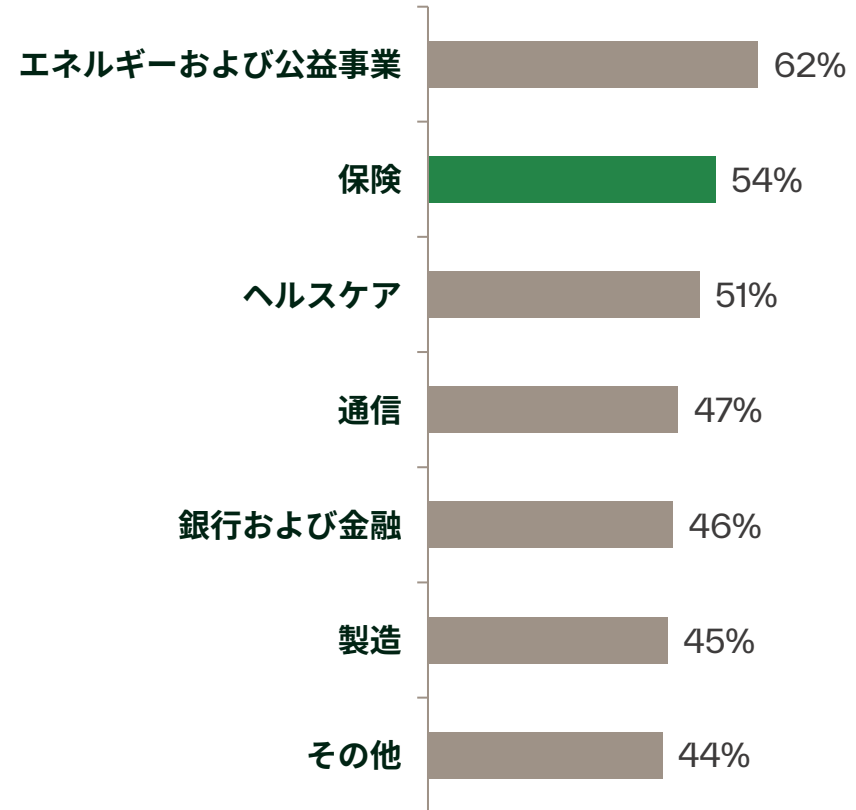
01.

多くの保険業界のリーダーは、イノベーションのペースに苦慮しており、他の業界と比較しても規制のスピードが速すぎると感じている傾向にあります

テクノロジーの進歩のペースが速すぎると感じている割合
同意の割合 (%)



自国における政策や規制のスピードが速すぎると感じている割合
選択者の割合 (%)



02.

テクノロジーへの備えのパラドックス

（矛盾）：リーダーは自社のテクノロジーに自信を持っていますが、その準備状況には懸念を抱いており、テクノロジーのサポート終了という差し迫った課題があります

経営層は、自社のITの現状に高い自信を持っています。例えば、10人のリーダーのうち9人までが、自社のITは最高水準だと回答しました。しかし深く掘り下げていくと、不安が顔を出します。10人中6人は、自社のITが将来のリスク管理に対して準備不足だと回答しています。このギャップは、AIなどのより新しい技術に関してより大きくなっています。10人中7人は、自社のITがテクノロジーの力で将来の混乱に対処する準備としては万全でないと感じています。

サポート終了やサービス終了も喫緊の課題です。CEOの3分の2は、自社のITが時代遅れ、またはサポート終了に近づいており、脆弱性やスキルギャップ、モダナイゼーションの課題を引き起こしているという懸念を抱いています。

現代の企業は、ほとんどの場合、テクノロジーのサポート終了という課題に取り組んでいます。Kyndryl Bridgeのデータによれば、サーバーやストレージ、ネットワーク、OSなどのミッションクリティカルな要素の44%がサポート終了に近づいているか、あるいはすでに達しているのです。こうしたサポート終了の課題を意識することによって、組織は今後の投資計画を改善し、準備を整え、効率性を高め、成長を実現できます。

90%

のビジネスリーダーは、自社のITインフラが最高水準だと自信を持っています

しかし、わずか

39%

の企業が、自社のITインフラは将来のリスク管理に対して準備ができていると回答しています

さらに

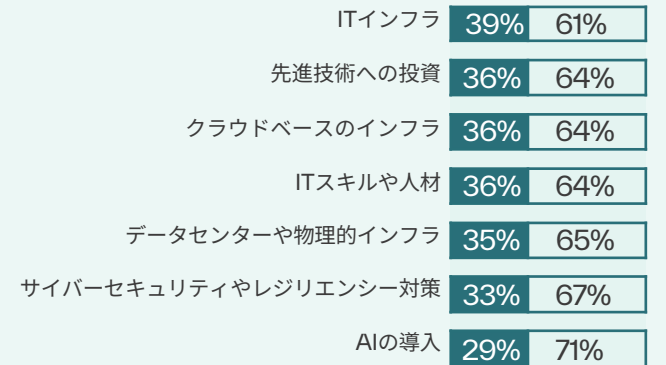
64%

のCEOは、自社のITが時代遅れ、またはサポート終了に近づいているという懸念を抱いています

44%

のサーバー、ストレージ、ネットワーク、OSはサポート終了に近づいているか、あるいはすでに達しています
(Kyndryl Bridgeのデータに基づく)

■ 準備が万全 □ 準備が万全ではない



02.

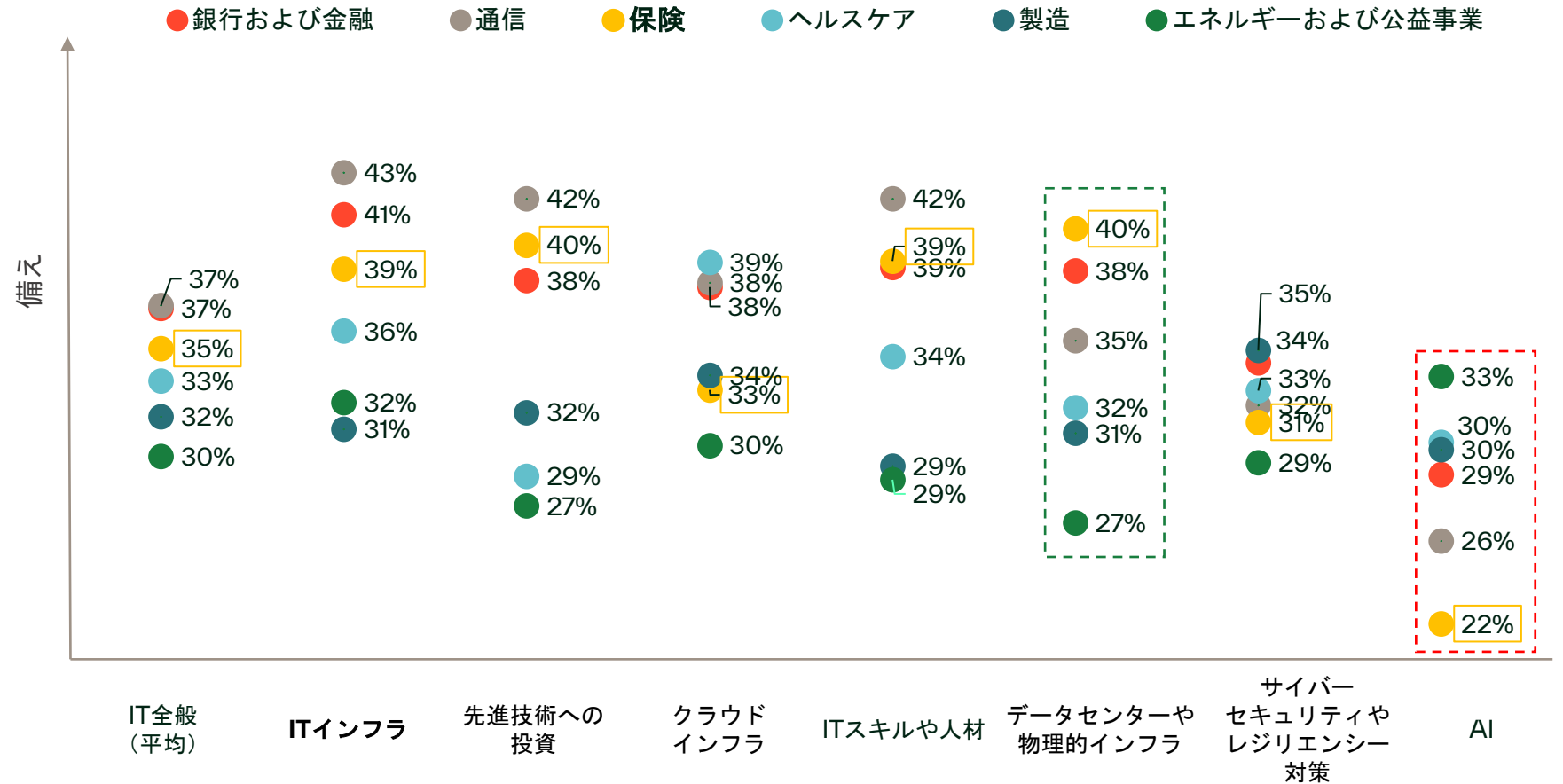
保険業界は、
データセンターと
物理インフラで
他の業界をリードして
いますが、
AIについては
最も遅れていると
感じています

39%

自社のITインフラが将来の
リスク管理に対して準備が
できていると回答した保険
業界のリーダーの割合
(全産業平均は39%)

IT全般への備え

準備が万全だと考えている割合 (%)



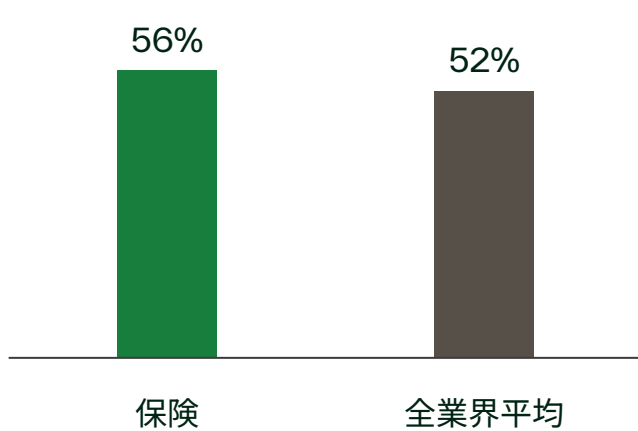
Q17:あなたの組織のこれらのIT要素は現在、将来のリスクや破壊的な力を管理する準備がどの程度できていると思いますか?
ベース: 全体 (n=3200) 、その他の市場 (n=200) ~ (n=500)

02.

Kyndryl Bridgeのデータによると、保険業界のリーダーの多くは、他の業界と同様に老朽化したインフラを使用しています

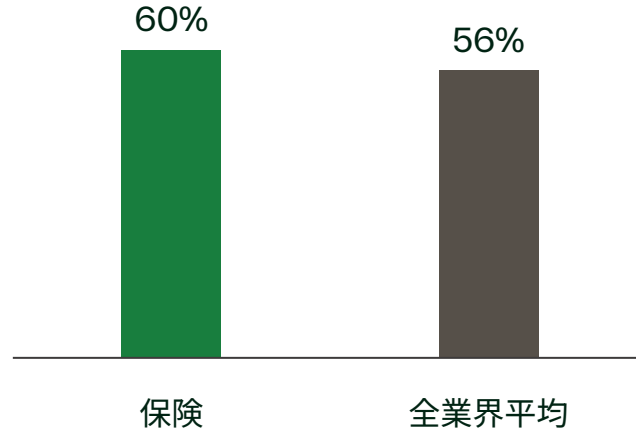
56%

の保険業界のリーダーが、自社のITが老朽化している、もしくはサポート終了（EOL）が近いことを懸念をしています



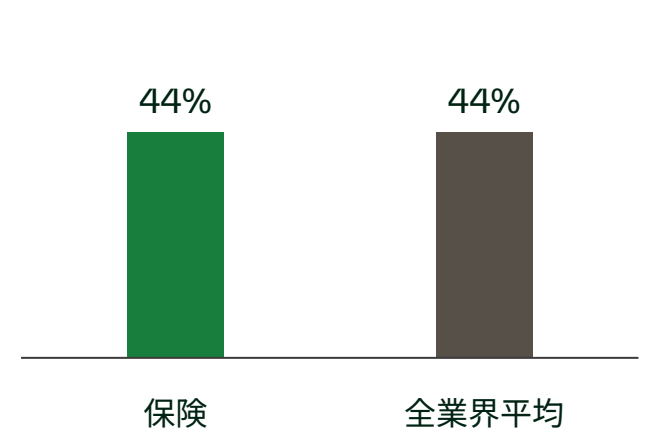
3人に2人

の保険業界のリーダーが、社内のITシステムがもたらす潜在的リスクに不安を感じています



44%

Kyndryl Bridgeによると、保険事業者のサーバー、ストレージ、ネットワーク、OSはサポート終了（EOL）に近づいている、あるいはすでに終了しています（グローバル平均44%と同等）



03.

ITはリスクを軽減する最良の手段ですが、ほとんどの企業において、テクノロジーモダナイゼーションはまだ初期段階にあります

ほぼすべてのリーダー（94%）が、ビジネスのモダナイゼーションは優先順位が高いと回答し、リスクを軽減する上で最も重要な対策にはITのアップグレードを挙げています。しかし、自社はテクノロジーモダナイゼーションにおいてリードし、ビジネス成果を促進する革新的なテクノロジーを利用していると感じているのは、10人中3人に過ぎません。

ほとんどのリーダー（71%）が、自社はモダナイゼーションの初期段階にあるとし、そのうち、56%が新たなデジタルテクノロジーの導入段階にある、15%が取り掛かったばかりと回答しています。

#1

経営層は、すべてのビジネスリスクを軽減する一番の方法としてITのアップグレードを挙げています

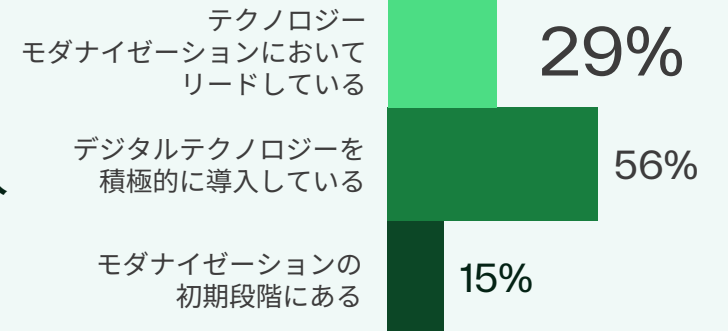
リスク軽減策トップ5

- 1.ITのアップグレード
- 2.サイバーセキュリティ対策
- 3.リスク評価
- 4.従業員教育
- 5.規制コンプライアンス

94%

がテクノロジーモダナイゼーションは優先順位が高いと回答しています

テクノロジーモダナイゼーションにおいて自社がリードしていると感じているのは、**10人中3人**に過ぎません



03.

保険業界の リーダーは、 定期的なリスク 評価の実施に最も 注力しています

- 保険業界のリーダーは、他のどの業界よりも、定期的なリスク評価、マッピング、監査の実施をリスク軽減に向けた最重要課題として挙げる傾向にあります（全業界平均31%に対し、保険業界は40%）
- 他の業界と同様に、ITインフラの更新も保険業界のリーダーの最優先事項の一つに挙げられています（全業界平均42%に対し、保険業界は39%）

上位5つのリスク軽減に向けた対策

選択者の割合

保険業界

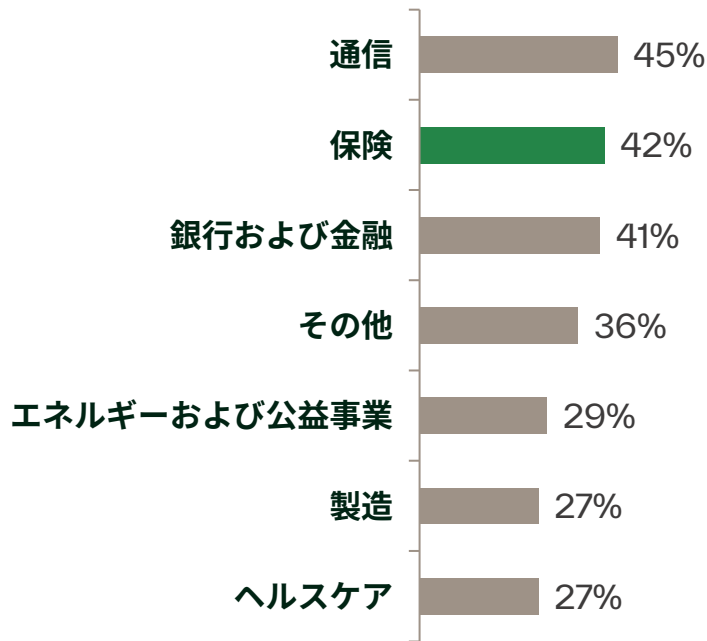
1. **定期的なリスク査定、マッピング、監査の実施**
(保険業界は、全業界平均より+9ポイント高い)
2. ITインフラのアップグレード
3. 堅牢なサイバーセキュリティ対策の実施
4. 規制遵守の取り組みの強化
5. 事業継続および災害復旧計画（DRP）の策定と実施

全業界平均

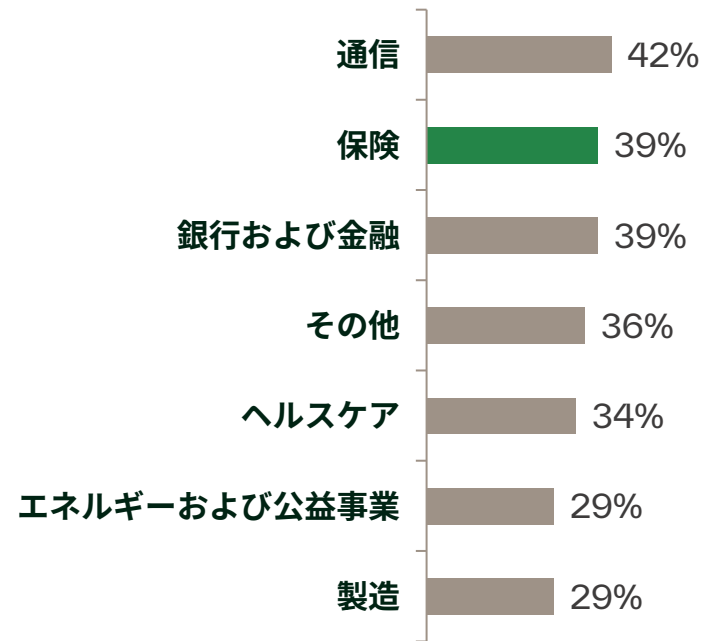
1. ITインフラのアップグレード
2. 堅牢なサイバーセキュリティ対策の実施
3. 定期的なリスク査定、マッピング、監査の実施
4. 従業員のトレーニングおよび育成プログラムへの投資
5. 規制遵守の取り組みの強化

03. 保険業界のリーダーは、他の業界よりもスキルに関して入念に備えていると回答している

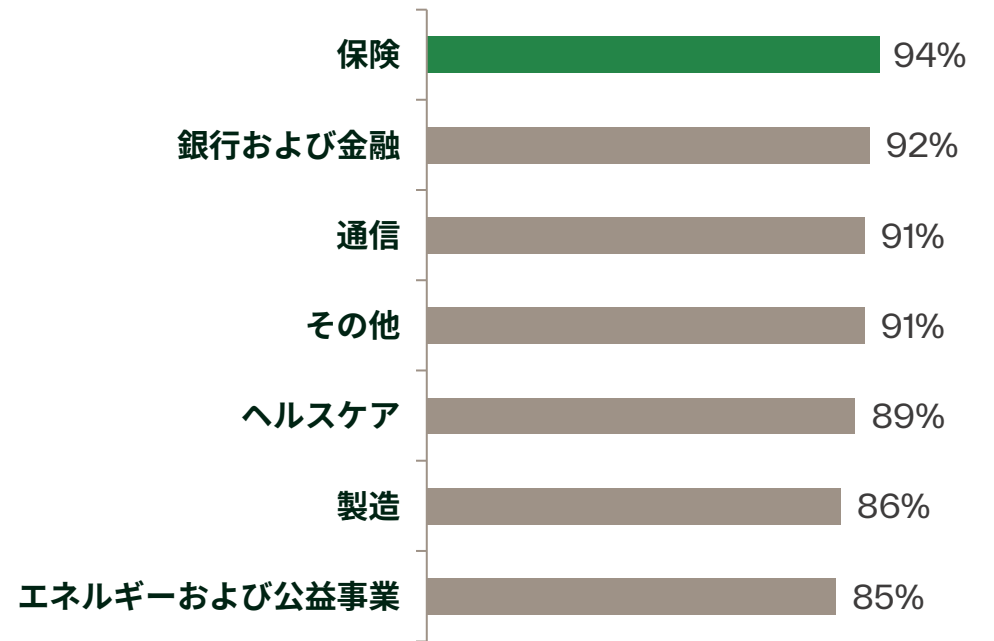
スキルギャップ / 人材不足に対応できる準備ができていると回答した割合
 選択者の割合 (%)



自社のITスキル / 人材は将来のリスク管理に対して準備ができていると回答した割合
 選択者の割合 (%)



自社のITスキル / 人材は最高水準であると確信していると回答した割合
 選択者の割合 (%)



03. すでに自動化を進めている 企業でも、改善の余地があります

8% 推奨される
目標値は
30%以上

ITインシデントが自動化により解決されている割合
(Kyndryl Bridgeのデータに基づく)

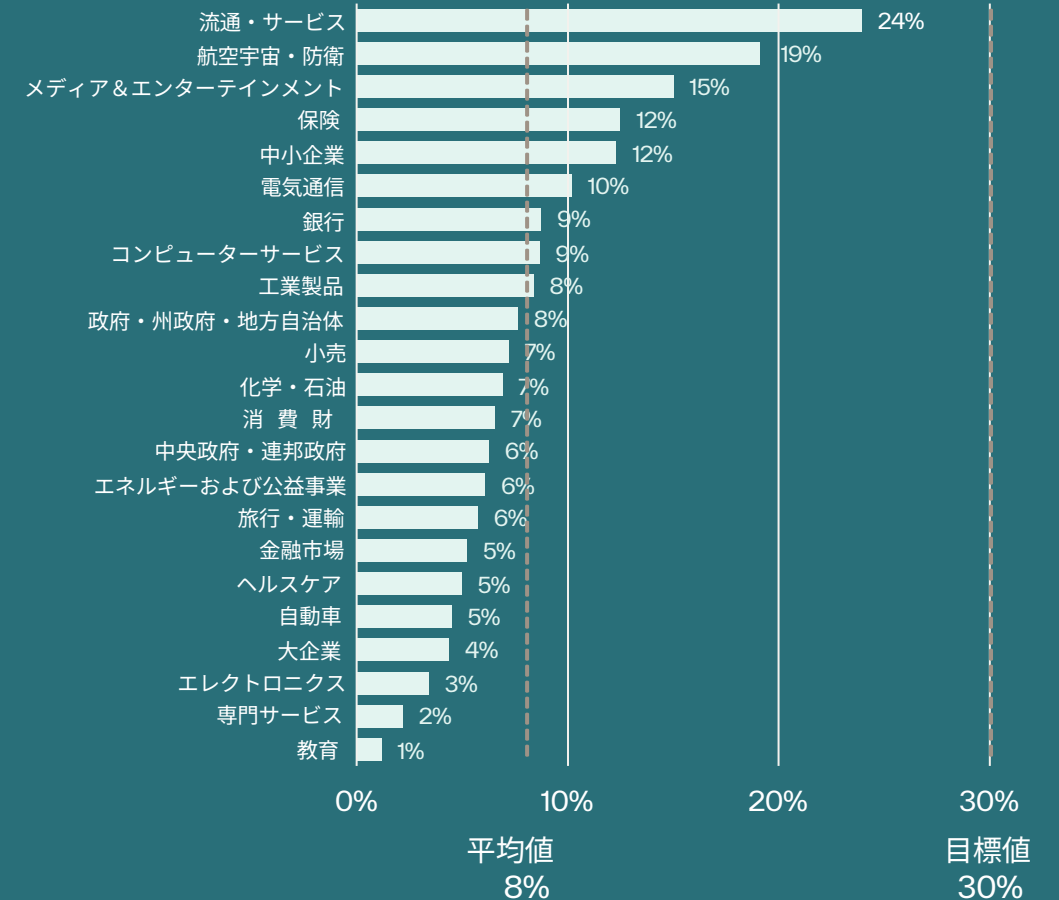
統計について：自動化により、企業は環境における問題を人手を介さずに自動的に解決し、重大なインシデントや計画的なメンテナンスコストを回避できるようになります。その結果、実行スピードが向上し、顧客に提供するサービス全体の質を高めることができます。

75% 推奨される
目標値は
90%以上

ITベストプラクティス採用の
平均値 (Kyndryl Bridgeの
データに基づく)

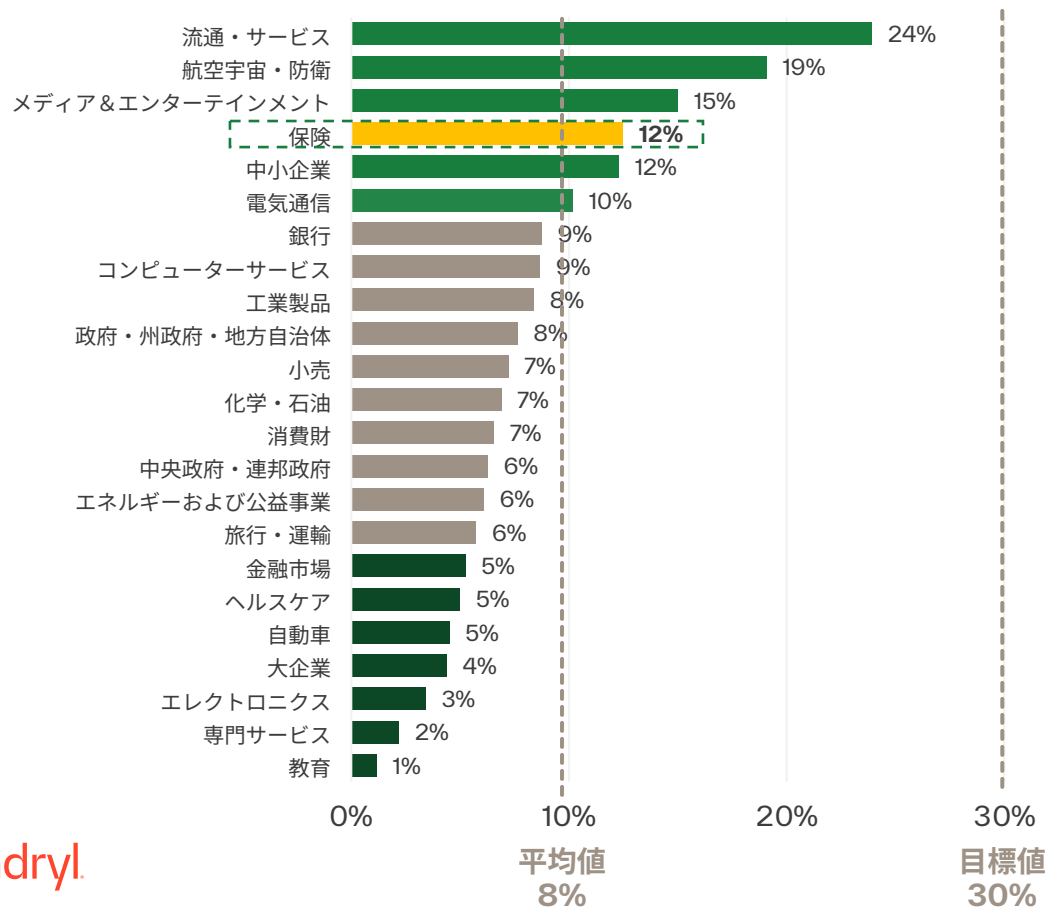
統計について：ベストプラクティスの採用は、実用的なIT活用において全体的な指標となり、業界のIT標準、セキュリティコンプライアンス、および規制遵守のための指標で構成され、自動的に監視することができます。

自動化によって解決されたイベントの割合

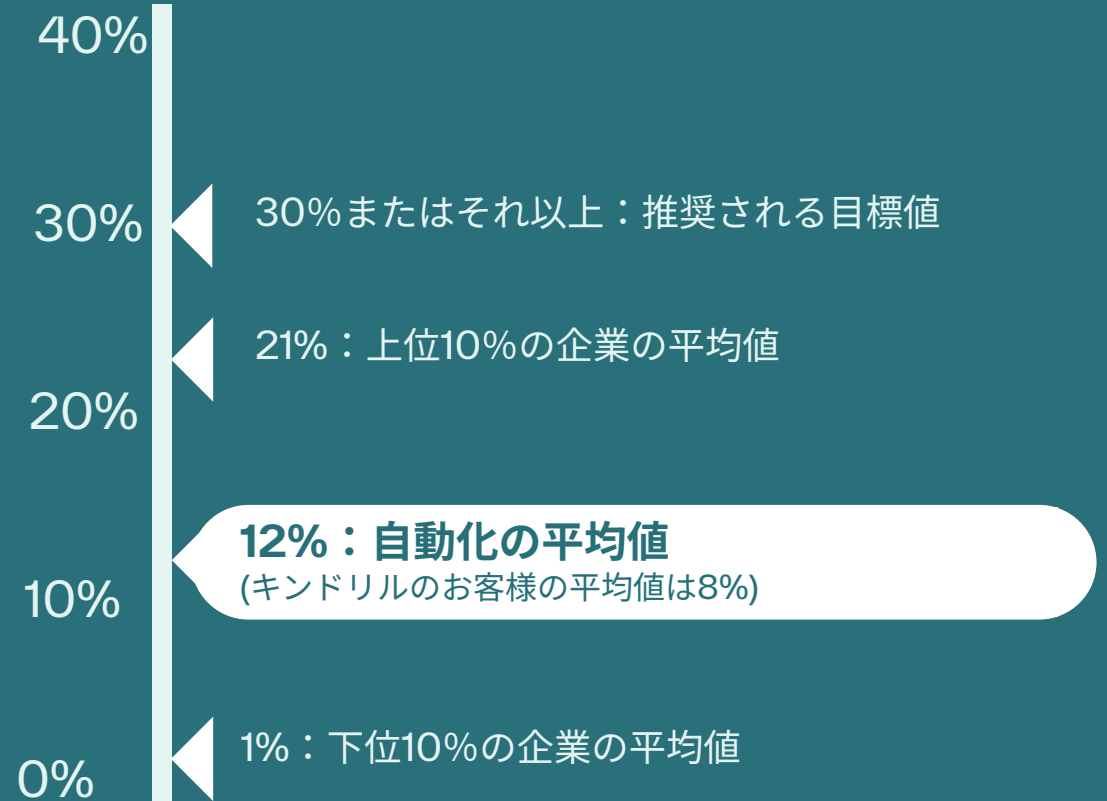


03. 保険業界の自動化は平均を上回っています

自動化によって解決されたイベントの割合



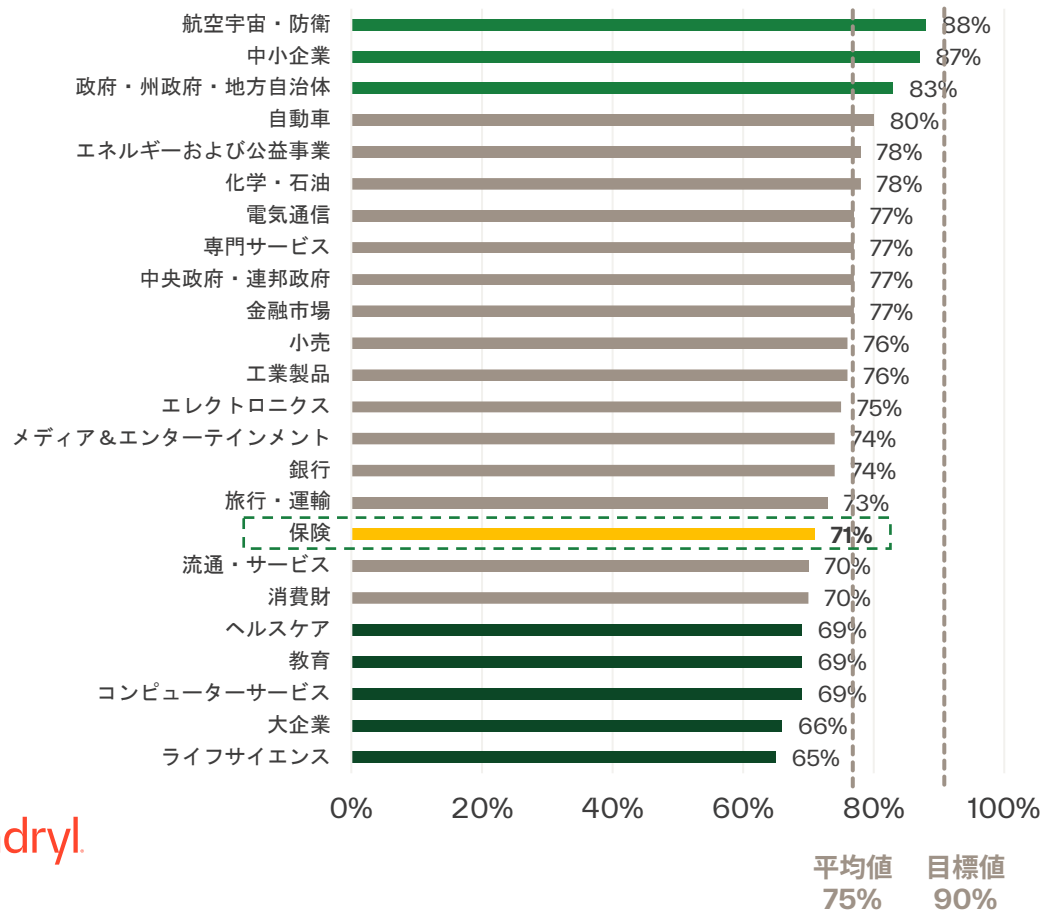
自動化によって解決されたイベントの割合



03.

しかしながら、保険業界のリーダーは、ベストプラクティスの採用において平均をやや下回っています

ITベストプラクティスの採用の割合



統計について：ベストプラクティスの採用は、効果的なITを総合的に評価する指標であり、業界のIT標準、セキュリティコンプライアンス、および規制遵守のための指標で構成され、自動的に監視することができます。

ITベストプラクティスの採用の割合

100%

94%：上位10%の企業の平均値

90%またはそれ以上：推奨される目標値

71%：ITベストプラクティスの採用の平均値 (キンドリルのお客様の平均値は75%)

61%：下位10%の企業の平均値

50%

04.

複雑さや優先順位付けの思考停止によって、テクノロジーモダナイゼーションが妨げられています

複雑さ、変化への抵抗、ビジネスリーダーとテクノロジーリーダーの間の不一致が、モダナイゼーションを妨げる共通の課題となっています。

短期的利益と長期的メリット、イノベーションとリスク、コストと機能など、相反する優先事項や多様な組織的ニーズが、経営とモダナイゼーションを同時に進めようとするリーダーの足を引っ張ることも考えられます。

サステナビリティの目標も、モダナイゼーションの取り組みを複雑にしている要因です。ほとんどのリーダーがサステナビリティを優先事項として挙げていますが、困難なトレードオフが生じてESGイニシアチブの妨げになることが多く、現時点でテクノロジーモダナイゼーションからサステナビリティに基づく成果を得ているリーダーの割合は、わずか27%です。

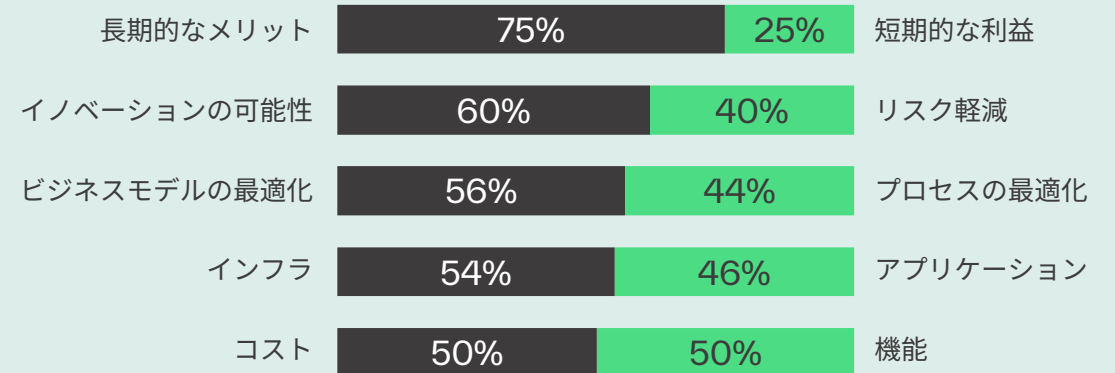
#1

複雑さがテクノロジーモダナイゼーションにおける一番の課題となっています

ビジネスリーダーとテクノロジーリーダーの間にある緊張の原因（上位）：

1. 変化への抵抗
2. 短期的なニーズと長期的な投資のバランスを取る上での課題
3. ROIを定量化する難しさ

テクノロジー投資の成功を評価する際の優先事項 優先事項に挙げている割合（選択式、強制選択）



90%

がテクノロジーモダナイゼーションのイニシアチブを実施する際にサステナビリティを優先事項に挙げています

27%

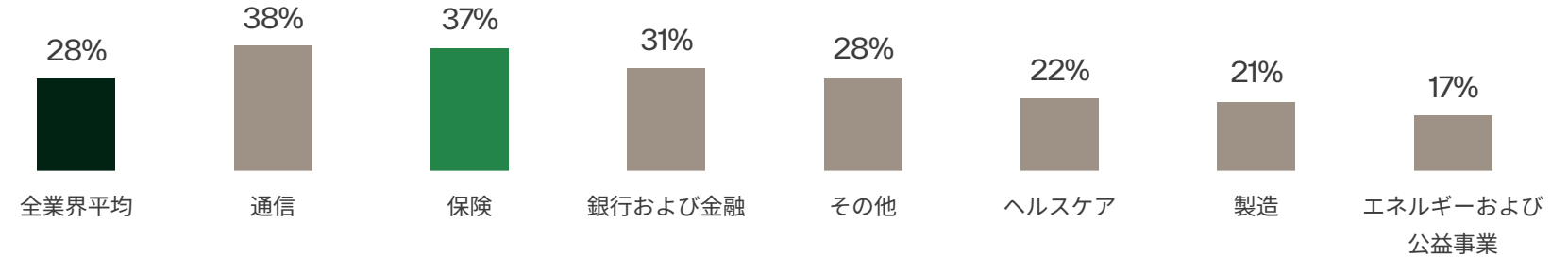
が過去1年間に、テクノロジーモダナイゼーションによってサステナビリティに基づく成果（CO2排出量の削減など）を達成していると回答しています

04.

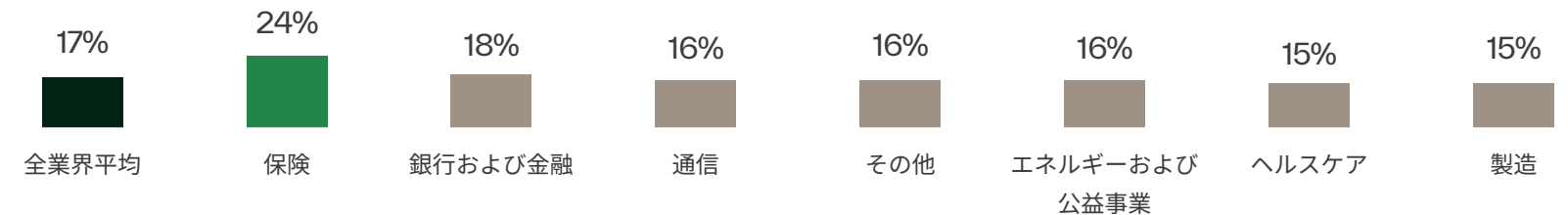
保険業界は 複雑性と技術的 負債に課題を 抱えています

- 保険業界のリーダーは、通信業界を除けば、テクノロジーモダナイゼーションの課題として「複雑性」を挙げる傾向にあります（全業界平均28%に対し、保険業界は37%）
- 加えて、保険業界のリーダーは技術的負債に特有の課題を抱えており、テクノロジーモダナイゼーションの課題トップ3に技術的負債を挙げる傾向が他の業界に比べて非常に高い傾向にあります（全業界平均17%に対し、保険業界は24%）

テクノロジーモダナイゼーションの課題トップ3に「複雑性」を挙げる割合
選択者の割合（%）



テクノロジーモダナイゼーションの課題トップ3に「技術的負債」を挙げる割合
選択者の割合（%）

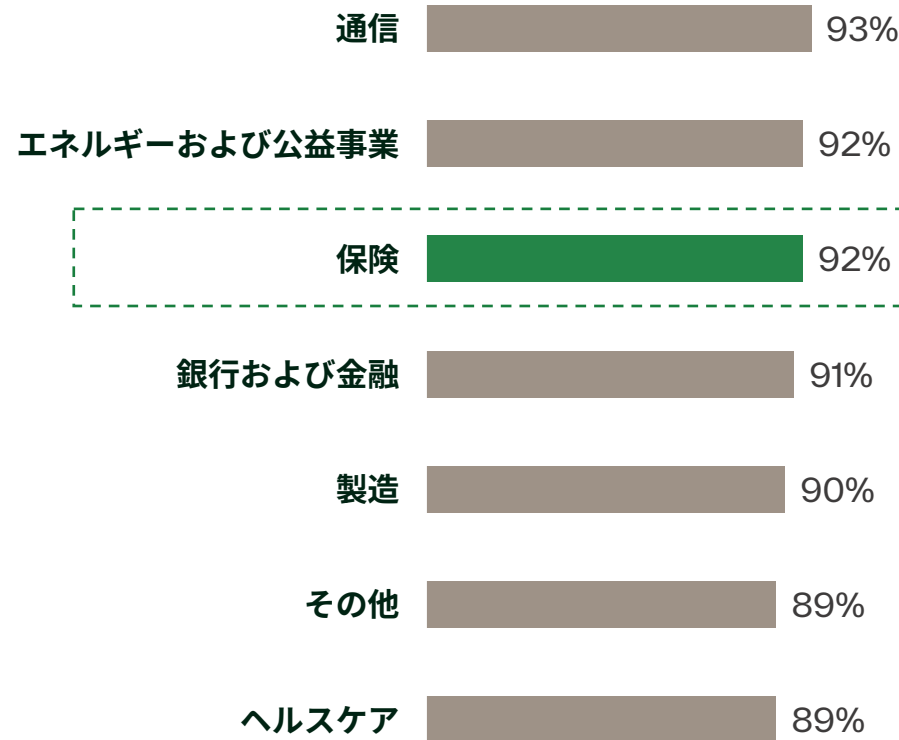


04.

サステナブルなモダナイゼーションは最優先課題であるものの、保険業界のリーダーたちは、他の業界に比べて持続可能性に基づくメリットを得られる傾向が低くなっています

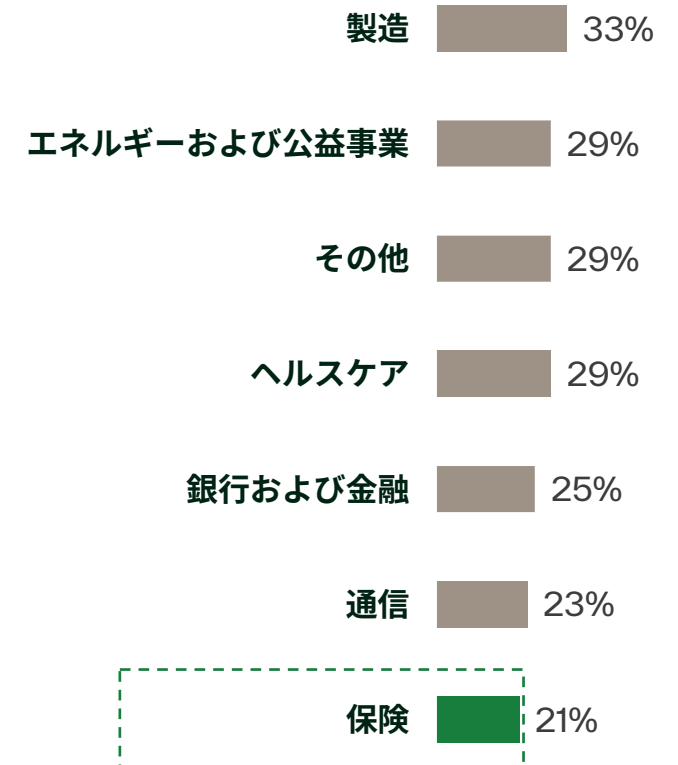
テクノロジーモダナイゼーションのイニシアチブを実施する際にサステナビリティを優先する割合

同意の割合 (%)



過去1年間に、テクノロジーモダナイゼーションによってサステナビリティに基づく成果を達成していると回答した割合

選択者の割合 (%)



05.

モダナイゼーションを加速するために大きなAI投資を行っているにもかかわらず、ROIはなかなか向上していません

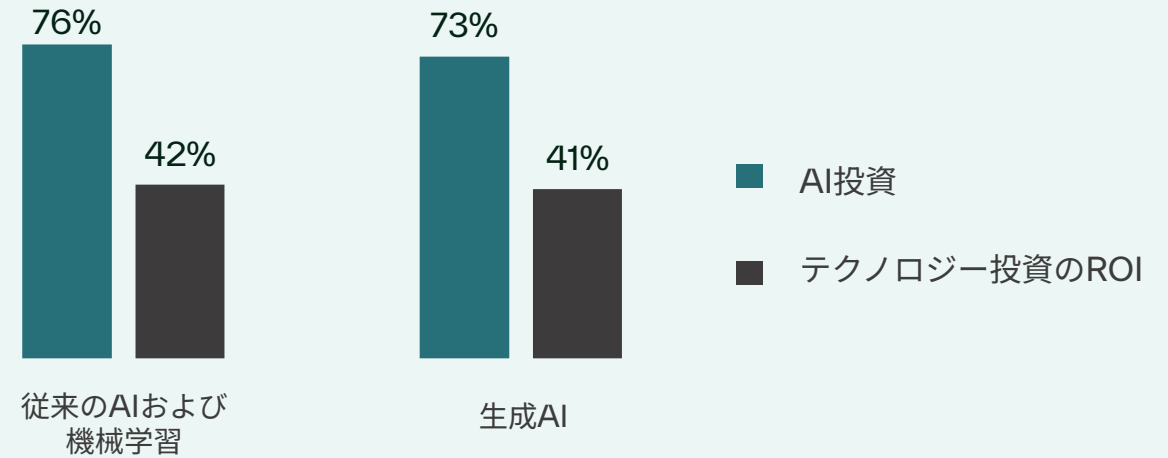
ほとんどの企業が機械学習を含む従来のAIと生成AIの両方に投資しています。しかし、現時点でAI投資によってROIが向上していると回答したビジネスリーダーの割合は、42%に過ぎません。

また、86%が自社のAI導入状況は最高水準だと回答しているにもかかわらず、自社のAIが将来のリスクに対処する準備ができていると感じている割合は29%に過ぎません。

ビジネスリーダーはAI導入の最大の障壁として、データプライバシー、ROIの不確実性、コンプライアンスを挙げていますが、競合他社の先を行くために必死で埋めようとしているスキル不足の第1位は、AIスキルです。

AI投資vs. ROI

選択された割合、現在投資中、ROIがプラスとなった割合



86%

が自社のAI導入状況は最高水準だと回答しています

しかし、わずか

29%

が自社のAI導入状況は将来のリスクに対処する準備ができていると考えています

AI導入を妨げる障壁トップ5：

1. データプライバシーとセキュリティ
2. ROIの不確実性
3. 規制とコンプライアンス
4. 統合
5. AIスキルにおけるギャップ

最も一般的なスキルギャップ：

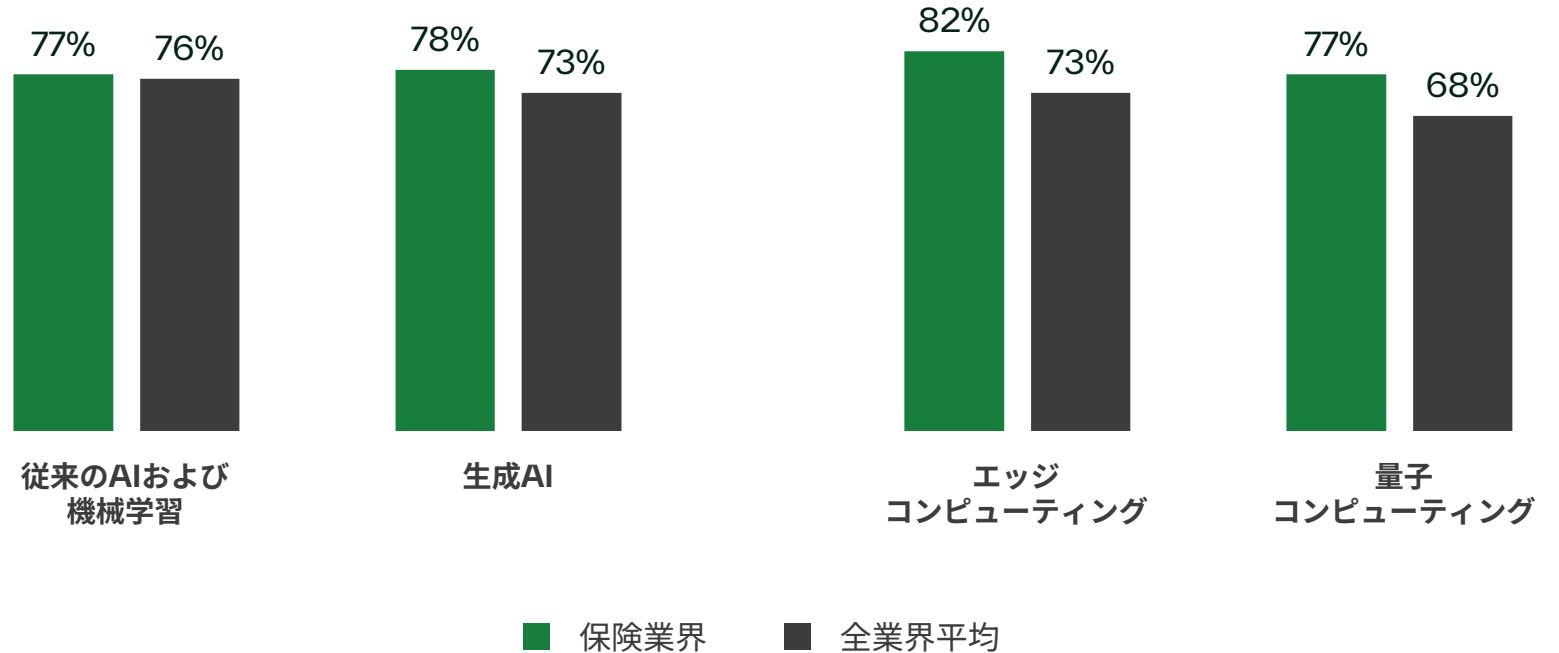
1. AI/機械学習のスキル
2. サイバーセキュリティ
3. データサイエンス/アナリティクス

05.

保険業界のリーダーは、AIに重点を置きつつも、他の業界よりもエッジコンピューティングや量子コンピューティングに投資する傾向にあります

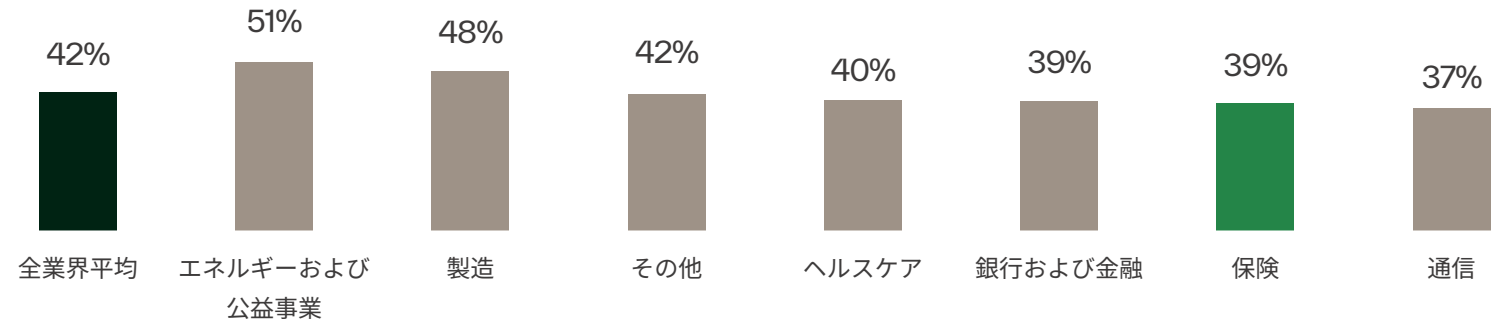
デジタルテクノロジーへの投資

選択された割合、現在投資中 (%)

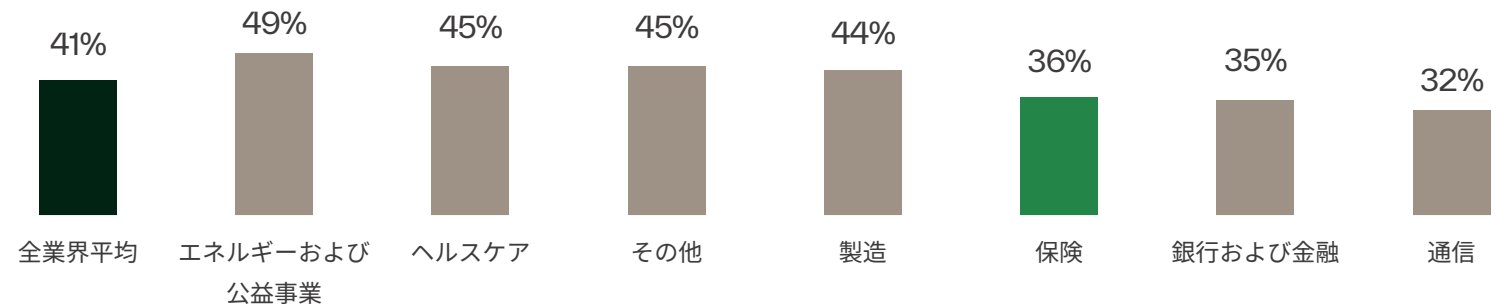


05.
 他の業界と比較して、保険業界のリーダーたちは、AI投資に対するポジティブなROIを実感している割合は少ないです

AI / 機械学習への投資におけるROI
 選択された割合、ROIがプラスとなった割合 (%)



生成AIへの投資におけるROI
 選択された割合、ROIがプラスとなった割合 (%)



06.

モダナイゼーションを推進してきたリーダーは、優先順位付けの思考停止を克服し、他のリーダーよりも将来への準備が整っています

テクノロジーモダナイゼーションをさらに推進しているリーダーは、リスクに対処する準備のレベルが高まっていると感じており（初期段階のモダナイゼーションと比較して11%増）、他とは一線を画す以下4つの特徴があります。

- 現在のミッションクリティカルな業務の遂行と将来に向けての変革を両立できる形で優先順位付けしている
- 先進技術（AI、量子コンピューティング、エッジコンピューティングなど）のROIが向上している
- 人材、スキル、文化を育成している
- ビジネス目標の達成に向けて効果的に連携している

テクノロジーモダナイゼーションにおいてリードしていると回答した企業を、初期段階にある企業と比較した結果：

+11%

が、将来のリスクに対する準備態勢がより高い水準にあると感じています

意思決定

+22%

は、経営層がITインフラとテクノロジーモダナイゼーションのプロジェクトをサポートするリソースを効果的に割り当てていることに同意しています

人材

+19%

が、先進技術に精通した人材を多数抱えています

+55%

が、自社のITが最新の状態で、現在および将来のニーズへの準備が整っていると回答しています

成功の評価

+16%

が、AI、生成AI、量子コンピューティング、エッジコンピューティングなどの先進技術について、ROIの向上を確認しています

連携

+43%

が、ビジネスリーダーとテクノロジーリーダーの間でシームレスな連携がとれており、見解も一致しています

06.

保険業界の
リーダーは、
他業界と同様に、
テクノロジーモダ
ナイゼーションに
対応するため、
リーダーシップの
意思決定や人材
管理に関する
サポートを
求めています

モダナイゼーションの取り組みにおいてサポートが必要とされる分野
合計 (%)

61%

リーダーシップの
意思決定への
サポート

63% (全業界平均)

- IT部門と他の部門の協業を強化
- モダナイゼーションの取り組みとビジネス目標の整合性を確保

55%

人材管理のサポート

57% (全業界平均)

- IT関連の人材の確保と維持
- 新たなテクノロジー向けのユーザー採用とトレーニングの強化

43%

既存インフラに新たなテクノロジーを統合する際のサポート

43% (全業界平均)

- 既存のインフラに新規テクノロジーを統合
- レガシーシステムの制約と、モダナイゼーションの課題への対処

備えのマインドセットの転換

これらのデータが示すように、現代のあらゆる組織がテクノロジーによって準備を整え、変革に取り組んでいます。そこには困難なトレードオフが存在します。これらの課題を克服するためには、マインドセットの転換を図る必要があります。将来に向けて備えるとは、事前の準備やレジリエンスの確保の先にあり、変革的で持続的な成果に到達できるよう、単なる変革を超えていくことです。このような広範なビジョンと組織の中心となるのがITであり、新しい投資の枠組みを受け入れ、Cレベルの経営層の中で協業モデルを進化させ、資産を総合的に捉えることで、長期的な成功につながります。

「テクノロジーへの備え」と同様に「人材への備え」を重視する必要がある。ITは全員で取り組むべき問題。

- ITがワークスペース文化の形成においてますます重要な役割を果たすようになり、CTOやCIOだけでなく、CMOやCHROにとっても不可欠です。共通認識を持つことが大切で、それには従業員を巻き込む必要があります。
- ITの課題解決に役立つことが期待される自動化は、人に置き換わるものではなく、スキルの拡張を可能にするものであり、アップスキリングやリスクリングといった新たなビジネス上の必要性を生み出しています。

革新的なものと慣れ親しんだものとのバランスを取り、それらを共存させる。

- 先進技術は新しい方向へ成長するための魅力的な機会をもたらしますが、リーダーは新たな投資の検討を既存のITのアップグレードと並行して行う必要があります。
- 新しいテクノロジーを最大限に活用するには、リーダーがそれらのツールをテクノロジーだけでなく、会社の文化やプロセス、目標とどのように統合できるかを理解しなければなりません。
- 新しいテクノロジーの能力はすべて、堅牢な基礎の上に成り立つものです。まずは慣れ親しんだものに投資することで、ROIの向上が期待できます。

運用し、加速させ、繰り返す。アジリティは、現代のテクノロジーリーダーの特徴。

- どの企業も、立ち止まっていたのでは競争力を維持することなどできません。人材はリスクに対する最大の防壁であり、機会をもたらす最高の手段となります。
- ROIの向上に苦慮している企業は、長期的な価値創出に向けて短期的な取り組みを始めることです。このような小規模なスタートが、より複雑なプロジェクトへと移行するためのより良い事例の構築に役立ちます。

技術的負債について検討し直す。可観測性は大切な味方。

- 常に変化する市場では、企業だけでなく誰もがこの課題に直面し続けています。
- IT全体に対する可観測性により、老朽化した設備や潜在的な問題を特定することが可能になり、Cレベルの経営層全員にインテリジェンスを提供できるようになります。
- どこからスタートすべきかを特定することは容易ではありませんが、技術的負債を軽減することで、業務の非効率性を解消し、成長の加速へとつながるはずです。

調査方法

Kyndryl Readiness Reportは、3,200名の経営幹部および上級意思決定者に対する調査データとKyndryl Bridgeのインサイトを組み合わせたものです。Kyndryl Bridgeは、AIを活用したキンドリルのオープン統合デジタルビジネスプラットフォームです。

Kyndryl Bridgeについて

Kyndryl Bridgeは、業務データ、IP、組み込み型AIを使用して、企業のIT資産全体に対する可観測性を提供します。このプラットフォームは、現在までに1,200社以上の企業にご利用いただき、1カ月あたり560万件におよぶAIを活用したインサイトを提供しています。本レポート内のKyndryl Bridgeデータは、2024年7月～9月の3カ月間のローリング平均です。

Kyndryl Bridgeでは、以下の3つの側面からIT資産の状態を確認できます。

- **ベストプラクティス**：セキュリティおよびコンプライアンス双方の要件と、業界のベストプラクティスに沿っているかどうかを示すスコア
- **即応性**：自動的に解決したインシデント数（人の介入を必要とする事例との比較）
- **競争力**：耐用年数を過ぎたIT資産の総数

3,200人

リーダーおよび上級意思決定者

Cレベルのビジネスリーダー（CEO、CFO）、Cレベルのテクノロジーリーダー（CIO、CTO）、シニアディレクターおよびビジネス・ユニット・リーダー。本サンプル中、回答者の50%はCレベルのエグゼクティブであり、50%は収益10億ドル規模の企業の代表者です。

17

の市場

米国 (n=300)	ブラジル (n=200)	スペイン (n=200)	ドイツ (n=200)	オランダ (n=67)	オーストラリア (n=200)
日本 (n=300)	メキシコ (n=200)	フランス (n=200)	イタリア (n=200)	ルクセンブルク (n=80)	中国 (n=200)
カナダ (n=200)	英国 (n=200)	ベルギー (n=53)	中東 (n=200)	インド (n=200)	

25

の業界
（主要6業界を
中心に）

銀行および金融 (n=642)	保険 (n=262)	その他（テクノロジー、 小売、サービス業、 自動車、行政など）
製造 (n=510)	ヘルスケア (n=247)	
通信 (n=327)	エネルギーおよび公益事業 (n=245)	

Edelman DXIが調査を実施しました。調査は、2024年7月1日～8月12日にわたり、インターネットと電話を通じて行われています。

詳細はこちら

Kyndryl Readiness Reportは、3,200名の経営幹部および上級意思決定者に対する調査データとAIを活用したキンドリルのオープン統合デジタルビジネスプラットフォームであるKyndryl Bridgeのインサイトを組み合わせたものです。



QRコードをスキャンするか、
kyndryl.biz/readiness_reportを
ご覧ください。

Thank you

キンドリルジャパン株式会社

東京都港区六本木6丁目10-1
六本木ヒルズ森タワー 43階
kyndryl.com/jp/ja

© Copyright Kyndryl, Inc. 2025

Kyndryl は、米国もしくはその他の国における Kyndryl Inc. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ Kyndryl Inc. または他社の商標である場合があります。

本資料は発行時点で最新のものであり、キンドリルが随時予告なしに変更する可能性があります。キンドリルが事業展開するすべての国で、全製品もしくはサービスが利用できるわけではありません。キンドリルの製品およびサービスは、提供されている契約書の条件および制約に基づき保証されます。

引用されている性能データおよび顧客例は、説明のみを目的として提示されています。実際の性能結果は、特定の構成や動作条件によって異なる場合があります。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

キンドリルの製品およびサービスは、提供されている契約書の条件および制約に基づき保証されます。